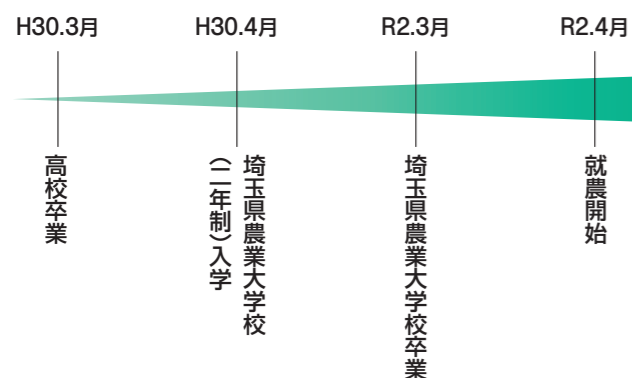




「人を笑顔にするお米をつくりたい」

こまつ りく  
**小松 陸さん(22歳・荒木)**

[就農年数] 2年  
[主な栽培物] 米麦



## Q 就農したきっかけ

**A** 農業は数ある選択肢の中の一つでした。実家は、祖父の代から株式会社ノムラファームとして米農業を営んでおり、小さいころからその手伝いをしていました。悩んだ末、高齢の祖父の支えに少しでもなりたいたいという気持ちから就農することを決めました。

## Q 就農して感じたこと

**A** 始めは、まったく余裕がありませんでした。1年目から農業機械を操作させていただきましたが、家族や周りの農家さんなど「先生」がたくさんいるので、安心して働いています。経験者からの教を自分のものに吸収して生かすことはとても楽しいと感じます。

## Q 農業の魅力

**A** お米は、農協への出荷や直売所での販売の他、飲食店にも卸していますが、その店で「このお米おいしい」と言って食べてくれる方を見たときはとてもうれしかったです。1年かけて世話する必要があるので、収穫するまでは不安もありますが、自分が作ったお米でいろんな人が笑顔になってくれるとやりがいを感じます。

## Q 今後の目標

**A** 今後は規模をどんどん拡大し、売り先も増やしていきたいです。また、母校の佐野日大高校に自分が作ったお米を卸すことを目標にしています。私は野球部に所属していましたが、体作りは「食」から始まると思います。部活動を頑張る生徒たちをお米で応援したいです。

## Q これから就農する方へ

**A** 高校卒業後の進路を農業大学校か4年制大学かで悩みましたが、主に実践しながら学んでいきたかったので農業大学校を選びました。クラスには、同世代で同じ志を持っている学生も多く、またクラスメートの8割は非農家出身者で、初めて農業に触れる方もいました。ぜひ、初心者の方も一緒に農業を始めてみませんか。



## Q 就農したきっかけ

**A** もともと造園の仕事をしていましたが、結婚してまもなく、妻が病を患ってしまいました。少しでも近くで看病したいとの思いから、自分の時間のサイクルで、暮らしと仕事を両立できる農業の道へ進むことを決意しました。

## Q 就農して感じたこと

**A** 実家が農家であったものの、独学で一から始めた農業。当初は、気候に左右され、思うように農作物が生育せず、難しいと感じました。ただ、農家は「毎年1年生」と聞きます。失敗することを恐れず、また積極的に先輩農家さんにアドバイスを頂ながら農作業を進めていくことが大切だと思います。また、農業は同じ仕事の繰り返しに見えて、実は農作物の成長に合わせて日々新しい仕事に取り組んでいる感覚で毎日が楽しいです。

## Q 農業の魅力

**A** 農作物は、モノを作ることは違い、すぐ完成形を目にすることができません。しかし、月日をかけて手入れをした農産物が、収穫するときに良い出来であると、その達成感は他と比べものにならないほどうれしいです。

## Q 今後の目標

**A** 障害のある方は、就労条件が厳しく、農業を職とすることが難しいと聞きます。一昨年、障害者施設の方に農作業を手伝ってもらっていたことがあり、一生懸命に農作業をしている姿に感銘を受けました。今後は、農業を体験できる機会を提供し、より多くの人に農業の楽しさを伝えていきたいです。

## Q これから就農する方へ

**A** 農業は、自分で自由に時間を配分することができるのが魅力です。しかし、その分、目の前のことを丁寧に行い、より自己管理を徹底しないとダメです。また、農作業は肉体的労働です。日頃から健康な体づくりを心掛けてください。



「自分の暮らしに合った仕事です」

いしだ かずや  
**石田 和也さん(41歳・荒木)**

[就農年数] 5年  
[主な栽培物] 多目品野菜

